

電気工学2 第2回

藤田 一寿

内部抵抗

■ 電源の内部抵抗

- 理想的な電源の抵抗値は0である。
- 実際の電源の抵抗値は0ではない（内部抵抗）。
 - 実際は内部抵抗があり電源内部で電圧降下が起こる。
- 計算するときは、電源を、右図のように理想的な電源と内部抵抗の2つに分け、それらを直列につないだものとして考える。



理想的な電源



実際の電源

■ 問題

- 図1の回路における端子電圧Vと電流Iの関係を図2に示す。この電池の両端子を短絡したとき(負荷抵抗=0)、電流I[A]はどれか。ただし、図1の点線内は電池の等価回路である。(臨床工学技士国家試験29回)

1. 0
2. 1.5
3. 2.0
4. 3.0
5. 6.0

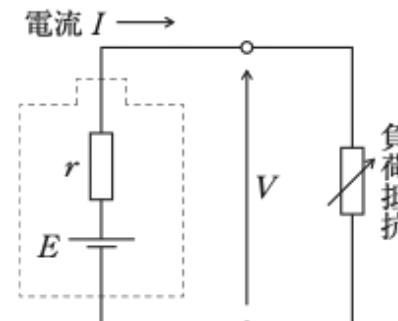


図1

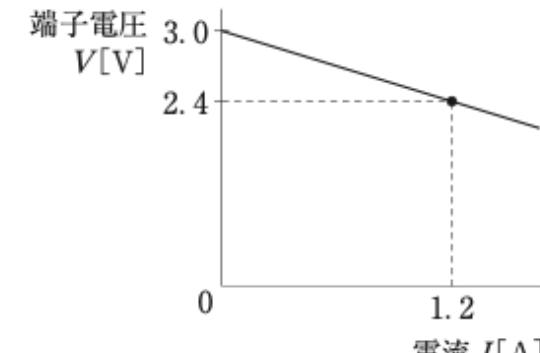


図2

問題

- 図1の回路における端子電圧Vと電流Iの関係を図2に示す。この電池の両端子を短絡したとき(負荷抵抗=0)、電流I[A]はどれか。ただし、図1の点線内は電池の等価回路である。(臨床工学技士国家試験29回)

- 0
- 1.5
- 2.0
- 3.0
- 6.0

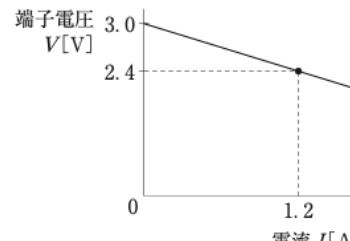
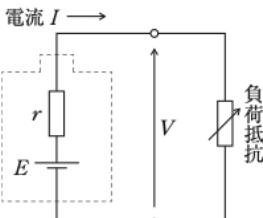


図2

負荷抵抗を R とする。電源電圧と各抵抗にかかる電圧は等しいので

$$E = Ir + IR$$

端子電圧 V は負荷抵抗にかかる電圧と同じなので

$$V = IR$$

である。よって V と I の関係は

$$E = Ir + V$$

となる。 $I = 0$ のとき $V = 3$ なので

$$E = 3$$

$I = 1.2$ のとき $V = 2.4$ なので

$$3 = 1.2r + 2.4$$

$$1.2r = 0.6$$

$$r = 0.5$$

よって、最初の式は

$$0.5I + IR = 3$$

端子を短絡した場合 $R = 0$ なので

$$0.5I = 3$$

$$I = 6$$

問題

- 図1の回路における端子電圧Vと電流Iの関係を図2に示す。この電池の両端子を短絡したとき(負荷抵抗=0)、電流I[A]はどれか。ただし、図1の点線内は電池の等価回路である。(臨床工学技士国家試験29回)

- 0
- 1.5
- 2.0
- 3.0
- 6.0

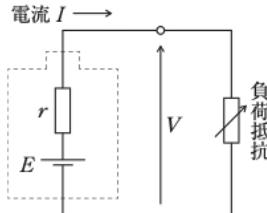


図1

別解

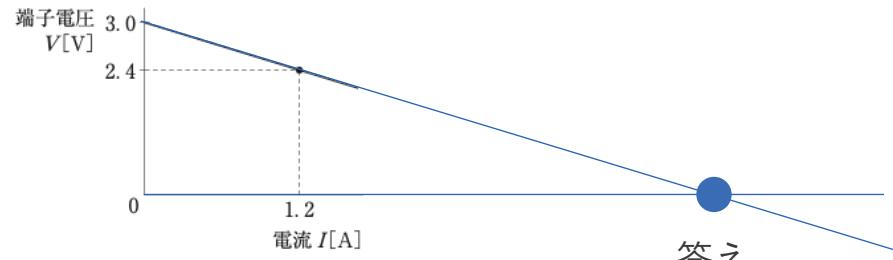
負荷抵抗が0のとき、内部抵抗に電圧 E がかかる。そのため、両端電圧 V は0となる。

$V = 0$ 、すなわち直線と I 軸が交わるときの I が答えとなる。直線の式は $V = aI + b$ なのでグラフ上の点を代入すると

$$a = -0.5 \quad b = 3$$

となる。よって $V = 0$ のときの I は

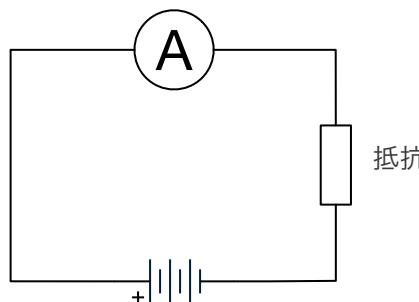
$$0.5I = 3 \\ I = 6$$



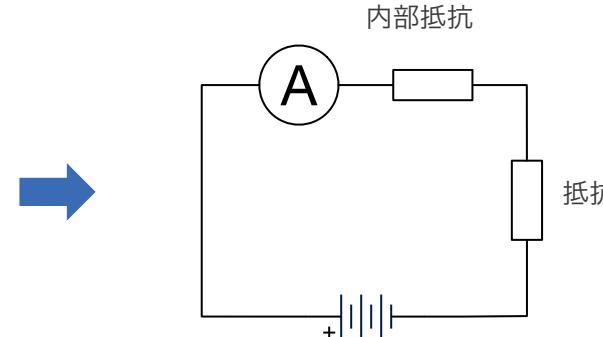
答え

■ 電流計の内部抵抗

- 理想的な電流計の抵抗値は0.
- 実際の電流計の抵抗値は0ではない（内部抵抗）.
 - 左図のような接続をした場合、電流計で電圧降下が起こる。
- 計算するときは、電流計を、右図のように理想的な電流計と内部抵抗の2つに分け、それらを直列につないだものとして考える。



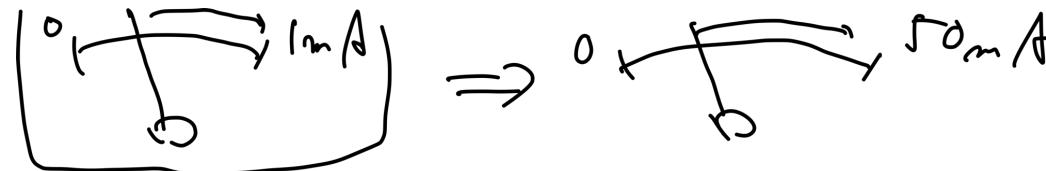
電流計でわずかに電圧が下がる。



電流計内部に抵抗があるため電圧が下がると考える。

■ 問題解説（分流器）

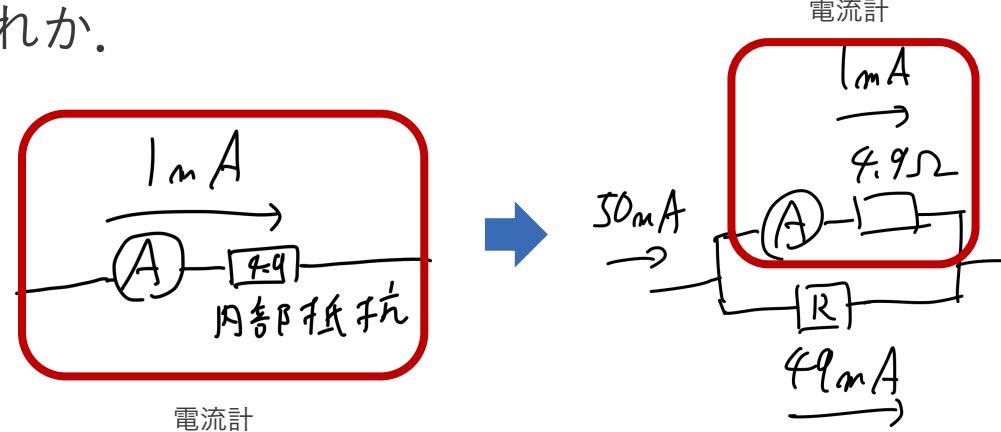
- フルスケール1mA, 内部抵抗 4.9Ω の電流計を使って50mAまでの電流を測定したい。正しいのはどれか。
- 1.00Ωの抵抗を電流計に直列に接続する。
 - 0.49Ωの抵抗を電流計に並列に接続する。
 - 0.10Ωの抵抗を電流計に直列に接続する。
 - 1.00Ωの抵抗を電流計に並列に接続する。
 - 0.10Ωの抵抗を電流計に並列に接続する。



■ 問題解説（分流器）

- フルスケール1mA、内部抵抗4.9Ωの電流計を使って50mAまでの電流を測定したい。正しいのはどれか。

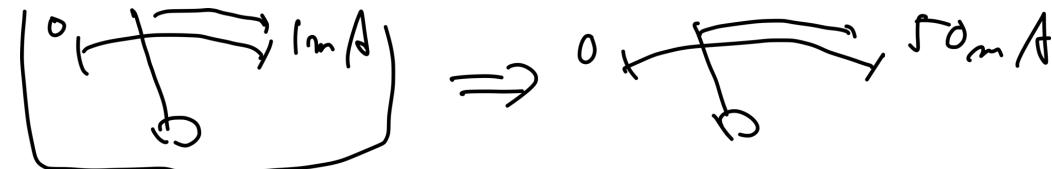
- 1.00Ωの抵抗を電流計に直列に接続する。
- 0.49Ωの抵抗を電流計に並列に接続する。
- 0.10Ωの抵抗を電流計に直列に接続する。
- 1.00Ωの抵抗を電流計に並列に接続する。
- 0.10Ωの抵抗を電流計に並列に接続する。



この問題の電流計だけでは1mAまでしか流せない。50mAの電流を計測したければ、電流計に抵抗を並列に抵抗Rを加え、電流計に1mA、抵抗Rに残りの49mA流せばよい。並列回路なので、電流計と抵抗Rには等しい電圧が加わる。つまり、次の式が成り立つ。

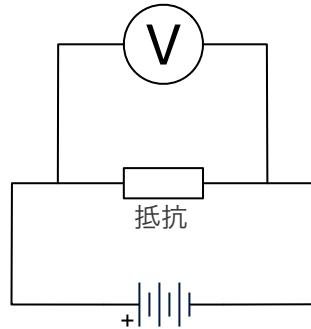
$$1\text{mA} \times 4.9\Omega = 49\text{mA} \times R$$

よって、 $R=0.1\Omega$ である。

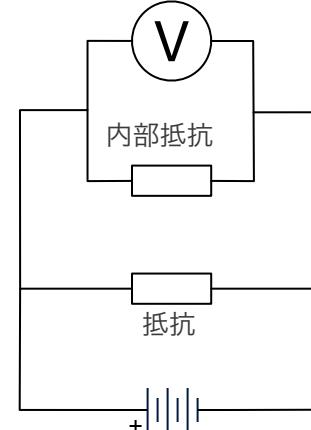


電圧計の内部抵抗

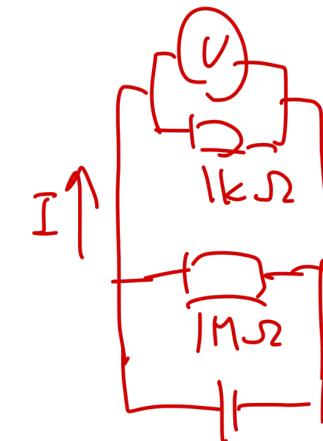
- 理想的な電圧計の抵抗値は無限大.
 - 実際の電圧計の抵抗値は無限大ではない（内部抵抗）.
 - 左図のような接続をした場合，電圧計にも電流が流れる.
 - 計算するときは，電圧計を，右図のように理想的な電圧計と内部抵抗の2つに分け，それらを並列につないだものとして考える.



電圧計にわずかに電流が流れる



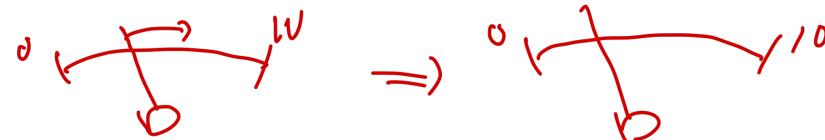
電圧計内部に抵抗があるため、電圧計に電流が流れると考える。



もし、計測対象の抵抗が大きかった場合、電流の多くが内部抵抗に流れるかもしれない。

■ 問題解説（倍率器）

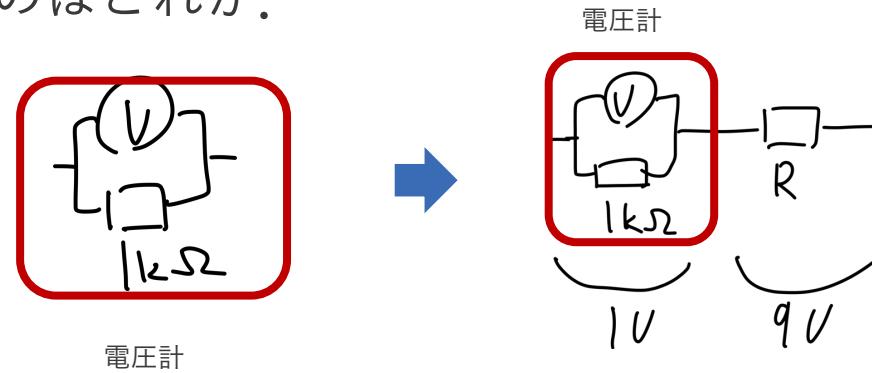
- フルスケール1V、内部抵抗 $1\text{k}\Omega$ の電圧計を使ってフルスケール10Vの電圧計としたい。正しいのはどれか。（第41回ME2種）
- 9 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に並列に接続する。
 - 9 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に直列に接続する。
 - 10 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に並列に接続する。
 - 11 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に直列に接続する。
 - 11 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に並列に接続する。



■ 問題解説（倍率器）

- フルスケール1V、内部抵抗 $1\text{k}\Omega$ の直列電圧計を使ってフルスケール10Vの電圧計としたい。正しいのはどれか。

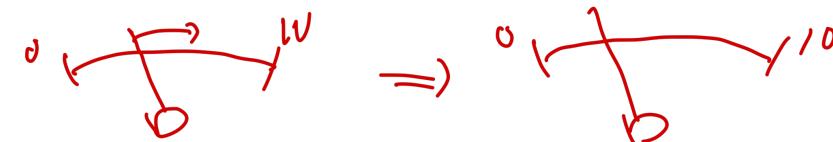
- 9 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に並列に接続する。
- ②** 9 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に直列に接続する。
- 10 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に並列に接続する。
- 11 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に直列に接続する。
- 11 $\text{k}\Omega$ の抵抗を電圧計に並列に接続する。



この問題の電圧計には1Vまでしか加えることができない。10Vの電圧を計測したければ、直列に抵抗Rを加え、10Vを電圧計で1V、抵抗で9Vに分圧すれば良い。電圧計と抵抗Rには等しい電流が流れるので、次の式が成り立つ。

$$1\text{V}/1\text{k}\Omega = 9\text{V}/R$$

よって、 $R=9\text{k}\Omega$ となる。



キルヒ霍ッフの法則, テブナンの法則, 電力

キルヒホッフの法則

■ キルヒ霍ッフの法則

重要!!

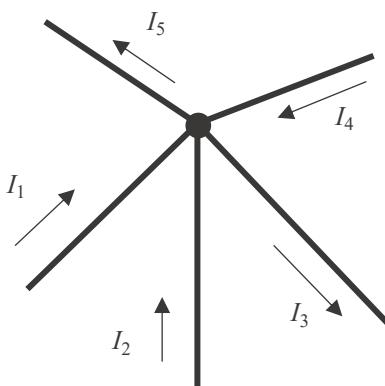
- ・ キルヒ霍ッフ第1法則（電流保存則）

- ・ 分岐点に流れ込む電流の和は、流れ出す電流の総和に等しい。
 - ・ 水の流れと同じように考える（ただし、蒸発は無視）。
 - ・ 消えることはない（流れ込む電流>流れ出す電流、とはならない）。
 - ・ 湧き出すこともない（流れ込む電流<流れ出す電流、とはならない）。

$$I_1 + I_2 + I_4 = I_3 + I_5$$

- ・ 分岐点における電流の総和は 0 である。

$$I_1 + I_2 + I_4 + (-I_3) + (-I_5) = 0$$



■ キルヒ霍ッフの法則

- ・キルヒ霍ッフ第2法則

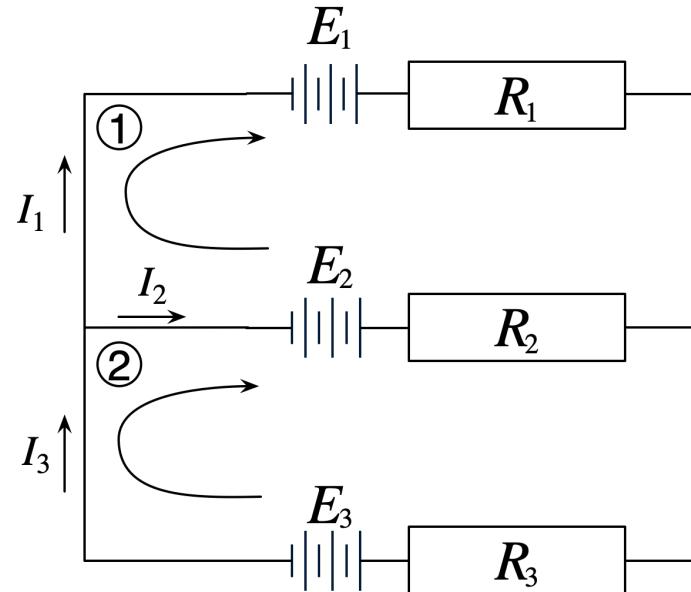
- ・回路網中の任意の閉回路を一定の向きにたどるとき、回路の各部の起電力の総和と電圧降下の総和は等しい。

閉回路1

$$E_1 - E_2 = R_1 I_1 - R_2 I_2$$

閉回路2

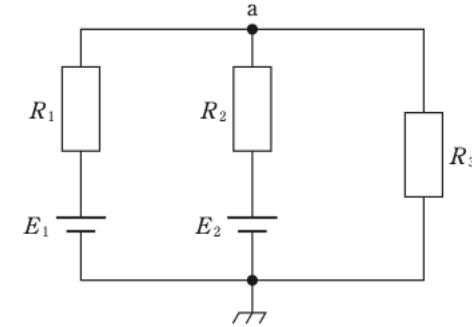
$$E_2 - E_3 = R_2 I_2 + R_3 I_3$$



■ 問題

- 図の回路でキルヒ霍ッフの法則を用いた解法について誤っているのは
どれか。(臨床工学技士国家試験34)

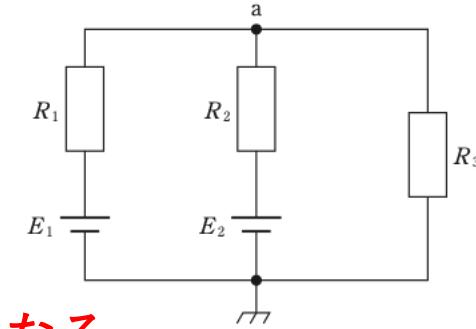
- 図の回路には3つの閉回路がある。
- a点の電位は起電力E2とR2の両端の電圧降下の差となる。
- a点に流れ込む電流とa点から流れ出す電流の和は等しい。
- 一つの閉回路に含まれる電圧降下の大きさと起電力の大きさは等しい。
- 一つの閉回路内で設定する電流の向きによって起電力の正負は変わる。



■ 問題

- 図の回路でキルヒ霍フの法則を用いた解法について誤っているのはどれか。（臨床工学技士国家試験34）

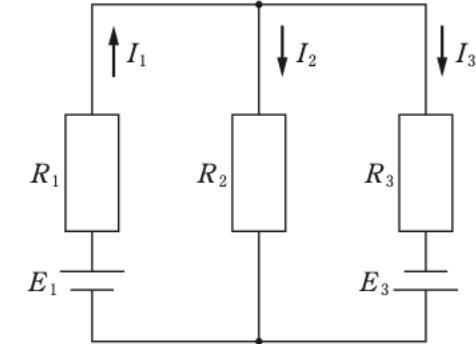
- 図の回路には3つの閉回路がある。
- a点の電位は起電力 E_2 と R_2 の両端の電圧降下の差となる。**
両端電圧そのものである。
- a点に流れ込む電流とa点から流れ出す電流の和は等しい。
- 一つの閉回路に含まれる電圧降下の大きさと起電力の大きさは等しい。
- 一つの閉回路内で設定する電流の向きによって起電力の正負は変わる。



問題

図の回路で成立するのはどれか. (臨床工学技士国家試験33)

- a) $I_1 - I_2 - I_3 = 0$
- b) $I_1 + I_2 + I_3 = E_1/R_1$
- c) $I_1R_1 + I_3R_3 = E_1 - E_3$
- d) $I_1R_1 + I_2R_2 = E_1$
- e) $-I_2R_2 + I_3R_3 = E_3$



問題

図の回路で成立するのはどれか. (臨床工学技士国家試験33)

a) $I_1 - I_2 - I_3 = 0$

流れ込む電流と流れ出す電流の和は0なので成り立つ.

b) $I_1 + I_2 + I_3 = E_1/R_1$

成り立たない.

c) $I_1 R_1 + I_3 R_3 = E_1 - E_3$

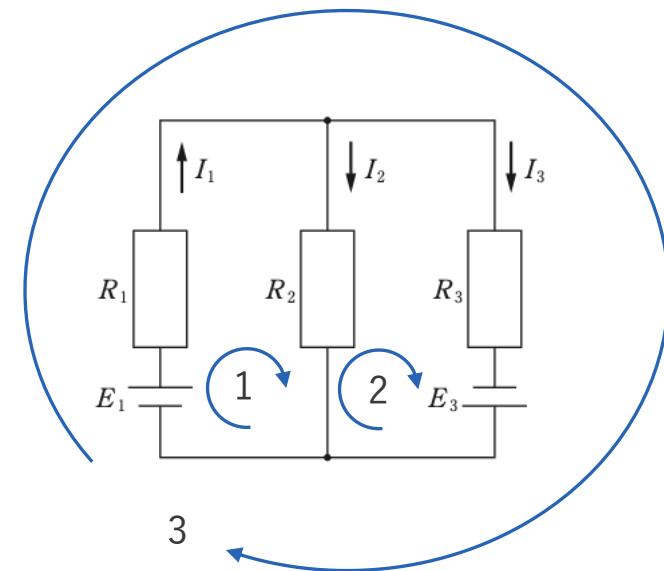
閉回路3を考えると、右辺の E_3 の
符号が間違っている.

d) $I_1 R_1 + I_2 R_2 = E_1$

閉回路1を考えると、成り立つ.

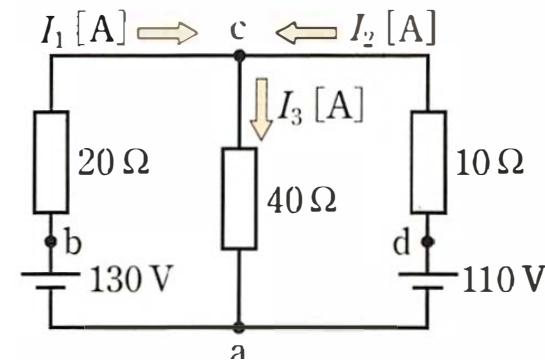
e) $-I_2 R_2 + I_3 R_3 = E_3$

閉回路2を考えると、成り立つ.



問題

- 図に示す回路を流れる電流の向きを図のように決め、電流 I_1 , I_2 , I_3 を求めよ。



問題

- 図に示す回路を流れる電流の向きを図のように決め、電流 I_1 , I_2 , I_3 を求めよ。

$$I_1 + I_2 = I_3 \cdots 1$$

$$20I_1 + 40I_3 = 130 \cdots 2$$

$$10I_2 + 40I_3 = 110 \cdots 3$$

3より

$$I_2 = 11 - 4I_3$$

これを1に代入すると

$$I_1 + 11 - 4I_3 = I_3$$

$$I_1 - 5I_3 = -11$$

$$20I_1 - 100I_3 = -220$$

これと2より

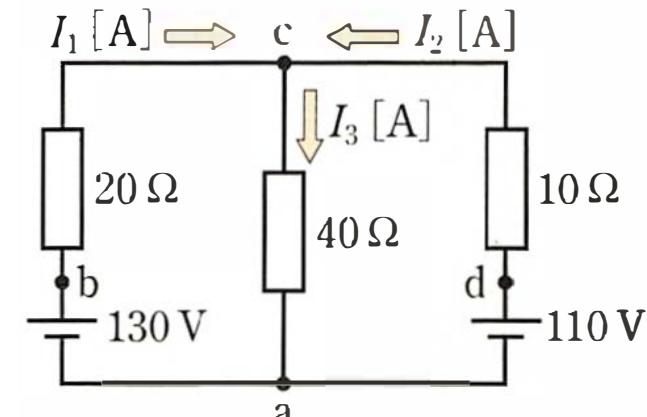
$$140I_3 = 350$$

$$I_3 = 2.5$$

よって

$$I_1 = -11 + 12.5 = 1.5$$

$$I_2 = 2.5 - 1.5 = 1$$

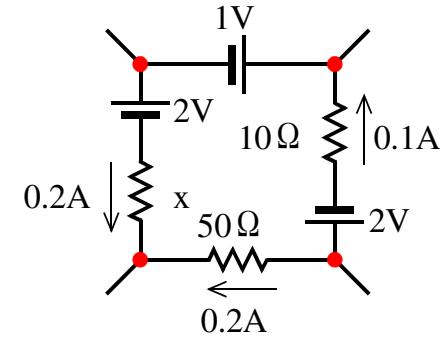


問題解説

第25回(2003)

【AM21】電圧源と抵抗からなる回路の各部の電流値および方向を調べたら図のようになつた。未知抵抗 x はいくらか。

- (1) $5\ \Omega$
- (2) $10\ \Omega$
- (3) $20\ \Omega$
- (4) $40\ \Omega$
- (5) $80\ \Omega$

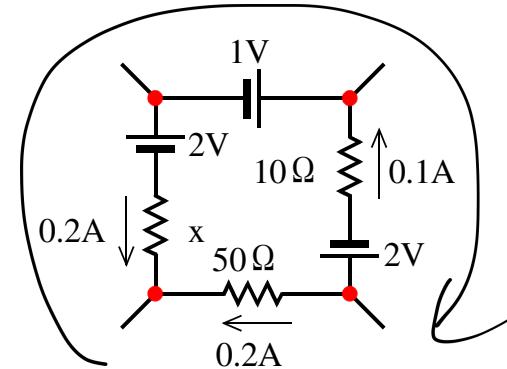


問題解説

第25回(2003)

【AM21】電圧源と抵抗からなる回路の各部の電流値および方向を調べたら図のようになつた。未知抵抗 x はいくらか。

- (1) $5\ \Omega$
- (2) $10\ \Omega$
- (3) $20\ \Omega$
- (4) $40\ \Omega$
- (5) $80\ \Omega$



矢印の向きに電流が流れていると想定すると、キルヒ霍ッフの第2法則から次の式が成り立つ。よって

$$-0.2x - 0.1 \times 10 + 0.2 \times 50 = 2 + 1 + 2$$

$$= 5$$

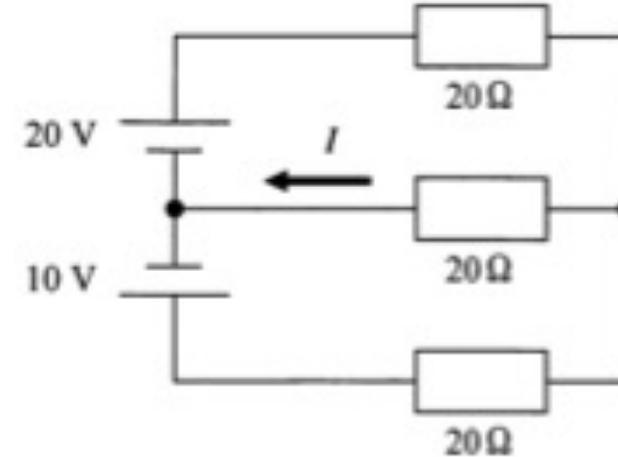
$$-0.2x = 5 + 1 - 10 = -4$$

$$x = 20$$

■ 問題解説

- 図の回路の電流I[A]はどれか。キルヒ霍ッフの法則を使って解け。(第42回ME2種改)

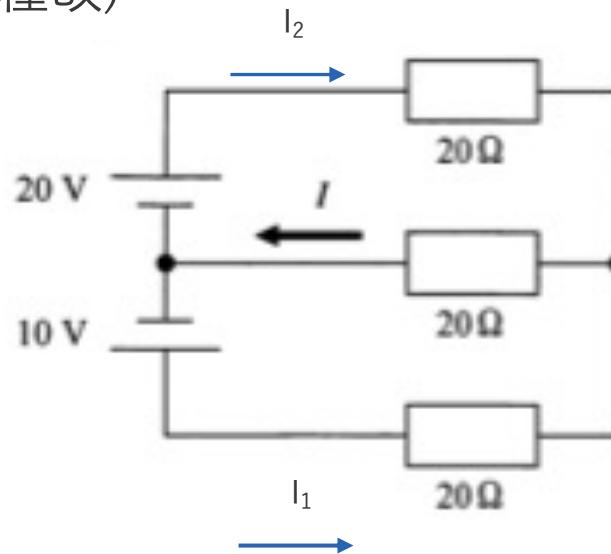
1. 0.1
2. 0.2
3. 0.3
4. 0.4
5. 0.5



問題解説

- 図の回路の電流I[A]はどれか。キルヒ霍ッフの法則を使って解け。(第42回ME2種改)

- 0.1
- 0.2
- 0.3
- 0.4
- 0.5



キルヒ霍ッフの法則より

$$I = I_1 + I_2 \quad \cdots 1$$

$$20I + 20I_2 = 20 \quad \cdots 2$$

$$20I + 20I_1 = 10 \quad \cdots 3$$

式2, 3より

$$I_1 + I_2 = -2I + 1.5$$

これを1に代入すると

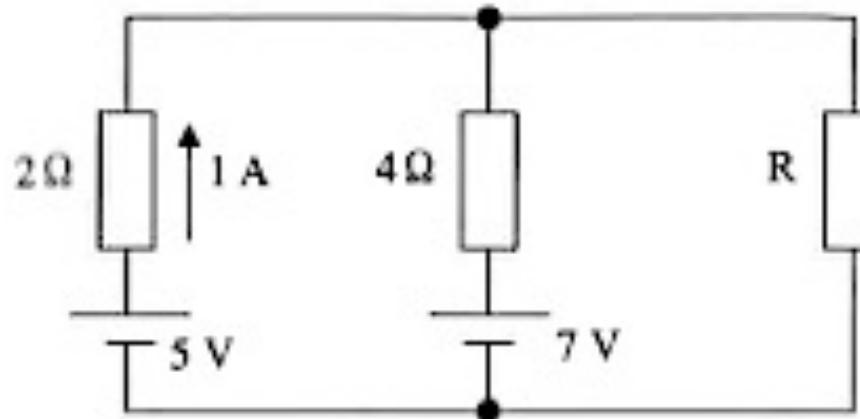
$$3I = 1.5$$

$$I = 0.5$$

■ 問題解説

- 図の回路において抵抗Rの大きさは何Ωか。キルヒ霍ッフの法則で解け。(第40回ME2種)

1. 0.5
2. 1.0
3. 1.5
4. 2.0
5. 2.5



■ 問題解説

- 図の回路において抵抗Rの大きさは何Ωか。キルヒ霍ッフの法則で解け。(第40回ME2種改)

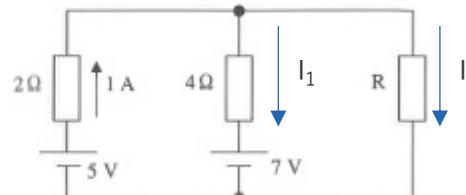
1. 0.5

2. 1.0

3. 1.5

4. 2.0

5. 2.5



キルヒ霍ッフの法則から

$$I_1 + I_2 = 1 \quad \cdots 1$$

$$4I_1 + 2 = -7 + 5 = -2 \quad \cdots 2$$

$$RI_2 + 2 = 5 \quad \cdots 3$$

$$2 \text{より } I_1 = -1A$$

$$1 \text{より } I_2 = 1 + 1 = 2A$$

よって3より

$$2R + 2 = 5$$

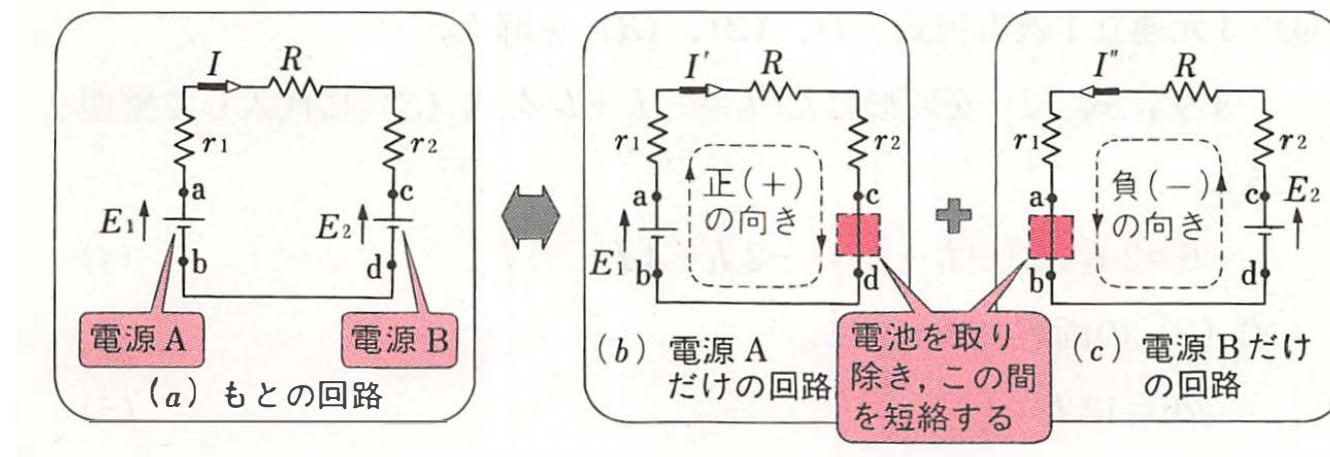
$$R = 1.5\Omega$$

重ね合わせの原理

■ 重ね合わせの理

- 回路網に2つ以上の起電力を含む場合、各枝路を流れる電流は、個々の起電力が単独にあり、他の起電力を短絡したときに、その枝路に流れる電流の代数和に等しい。

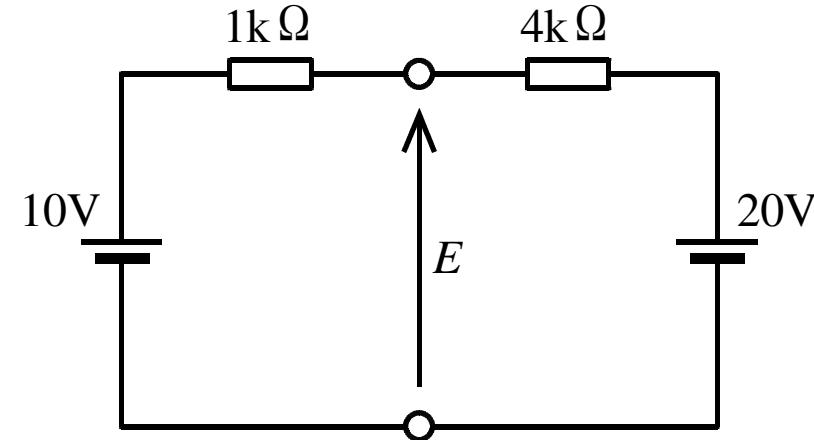
$$I = I' + (-I'')$$



■ 問題解説

- 図の回路の電圧 E は何Vか。重ね合わせの原理を用いて解け。

- 10
- 12
- 14
- 18
- 20



問題解説

- 図の回路の電圧 E は何Vか。重ね合わせの原理を用いて解け。

1. 10

下図のように各電源を短絡した回路を考える。

2. 12

20Vを短絡させたとき、 $1\text{k}\Omega$ の抵抗にかかる電圧 V_1 は、

$$V_1 = 10 \times \frac{1}{5} = 2$$

3. 14

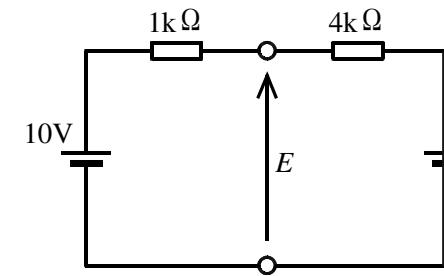
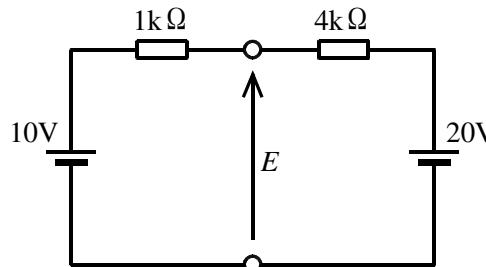
である。10Vのを短絡させたときに $1\text{k}\Omega$ の抵抗にかかる電圧 V_2 は

$$V_2 = 20 \times \frac{1}{5} = 4$$

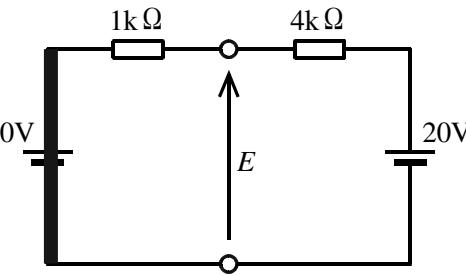
4. 18

時計回りに回路を見ると、10Vの電源の場合、 $1\text{k}\Omega$ の抵抗では2V電圧が下がり、20Vの電源の場合、電圧4Vが上がっているとみなせる。
よって E は

$$E = 10 - 2 + 4 = 12$$



20Vを短絡



10Vを短絡

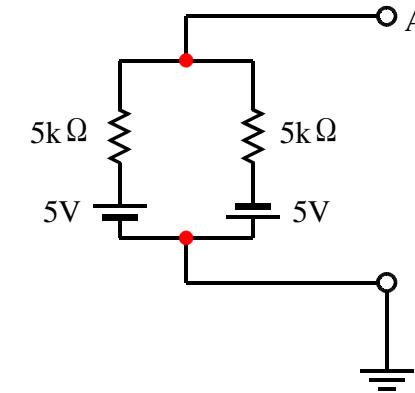
■ 問題解説

第27回(2005)

【AM21】図の直流回路で、A点の電位は何Vか。

- (1) -5
- (2) -2.5
- (3) 0
- (4) 2.5
- (5) 5

重ね合わせの原理で解け。

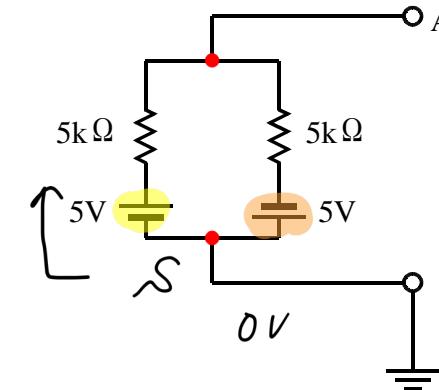


問題解説

第27回(2005)

【AM21】図の直流回路で、A点の電位は何Vか。

- (1) -5
- (2) -2.5
- (3) 0
- (4) 2.5
- (5) 5



それぞれの電源が短絡した場合を考える。

右の5Vの電源が短絡したとすると、 $5\text{k}\Omega$ の抵抗で起こる電圧降下 V_1 は、

$$V_1 = \frac{5}{2} = 2.5$$

どちらの電源も5Vなので、左の電源が短絡したときの電圧降下 V_2 も2.5Vである。

両方の電源同じ向きなので、回路を時計回りに見ると、どちらの回路で起こった電圧降下はそれぞれ負である。

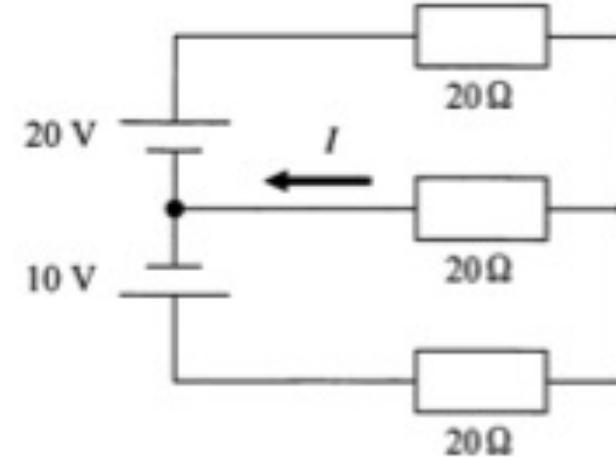
よって

$$V = 5 - 2.5 - 2.5 = 0$$

■ 問題解説

- 図の回路の電流I[A]はどれか。重ね合わせの原理を使って解け。(第42回ME2種改)

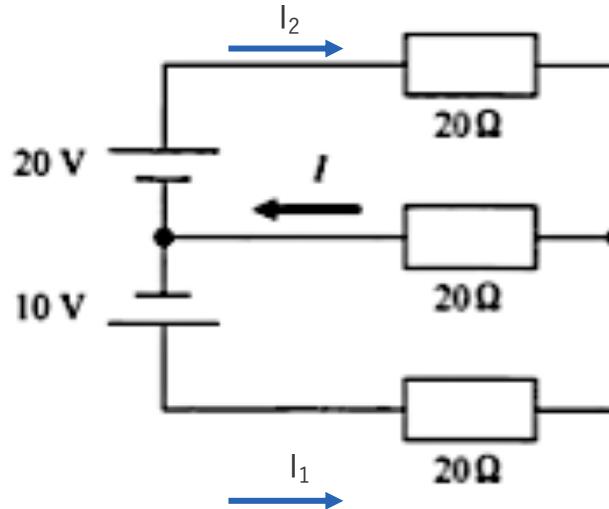
1. 0.1
2. 0.2
3. 0.3
4. 0.4
5. 0.5



■ 問題解説

- 図の回路の電流I[A]はどれか。(第42回ME2種)

- 0.1
- 0.2
- 0.3
- 0.4
- 0.5



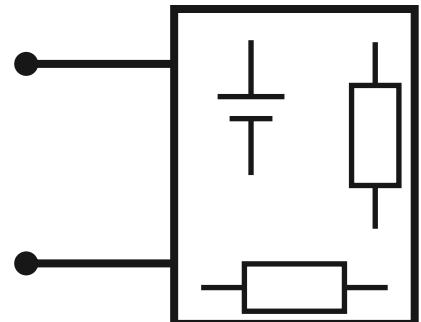
10Vの電源が短絡しているとすると,
回路の合成抵抗は
 $20+(20+20)/2=30$
なので, $I_2=20/30\text{ A}$
よって $I=1/3\text{ A}$
また, 20Vの電源が短絡しているとすると
回路の合成抵抗は30なので,
 $I_1=10/30\text{ A}$
よって $I=0.5/3\text{ A}$

重ね合わせの原理より, $I=1/3+0.5/3=0.5\text{ A}$

テブナンの定理

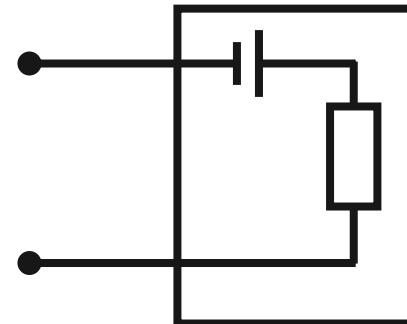
■ テブナンの定理

- ・線形な素子（抵抗など電圧と電流の関係が比例する素子）から回路が出来ている場合、どのような回路でも電圧源と抵抗だけの簡単な等価回路にできる。
- ・複雑な回路を単純な等価回路において考えるときに使う。



=

等価

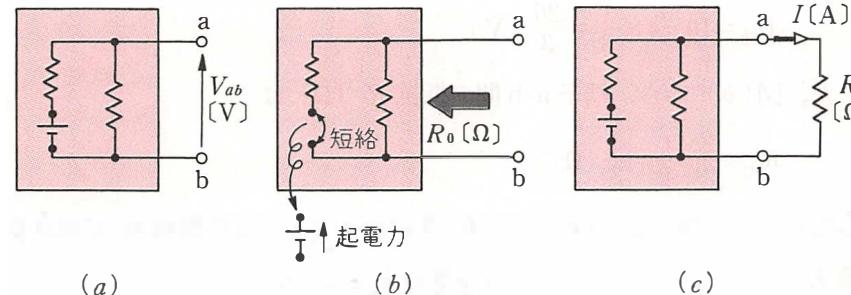


単純な回路

■ テブナンの定理

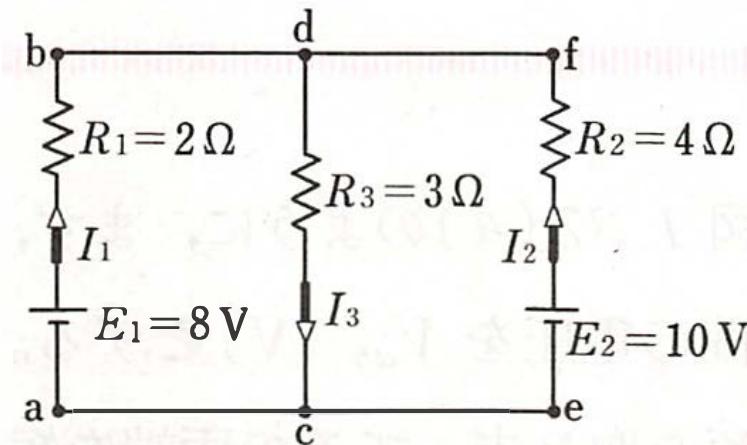
- 等価回路の求め方
- (a)のようにab間の電圧を V_{ab} とする
- (b)のように、電源を取り除き短絡させる。そして、ab間の抵抗を R_0 とする。
- (c)のようにab間に抵抗Rを接続すると、抵抗Rに流れる電流Iはとなる。

$$I = \frac{V_{ab}}{R_0 + R}$$



問題

- 電流 I_3 をテブナンの定理を用い求めよ。



問題

- 電流I₃をテブナンの定理を用い求めよ。

図aのような回路を考える。

回路に流れる電流をIとする

$$2I + 4I = 8 - 10$$

$$6I = -2$$

$$I = -\frac{1}{3}$$

よって電圧V_{dc}は

$$V_{dc} = 8 + \frac{2}{3} = \frac{26}{3}$$

また、図bのような回路を考えると、その
合成抵抗Rは

$$\frac{1}{R} = \frac{1}{2} + \frac{1}{4} = \frac{2+1}{4} = \frac{3}{4}$$

$$R = \frac{4}{3}$$

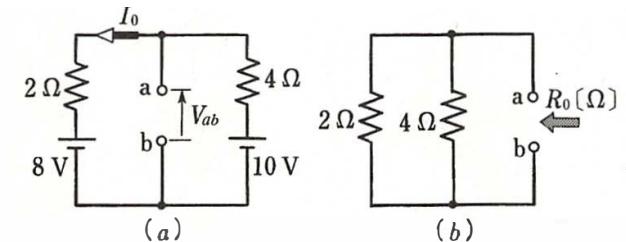
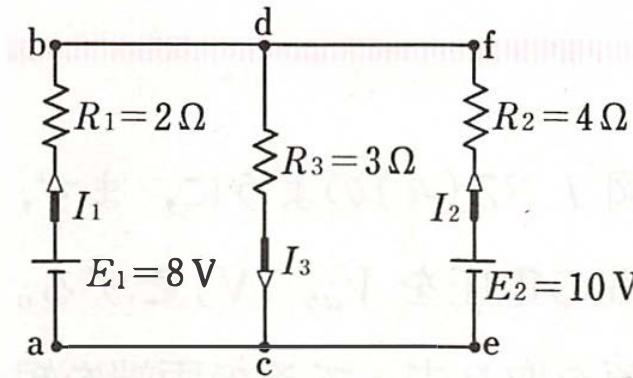
つまり等価回路は図cとなる。電流I₃は

$$\frac{4}{3}I_3 + 3I_3 = \frac{26}{3}$$

$$4I_3 + 9I_3 = 26$$

$$13I_3 = 26$$

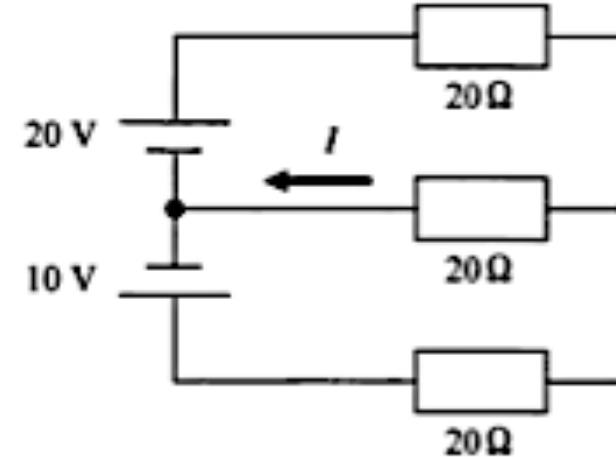
$$I_3 = 2$$



■ 問題解説

- 図の回路の電流I[A]はどれか。テブナンの定理を使って解け。(第42回ME2種改)

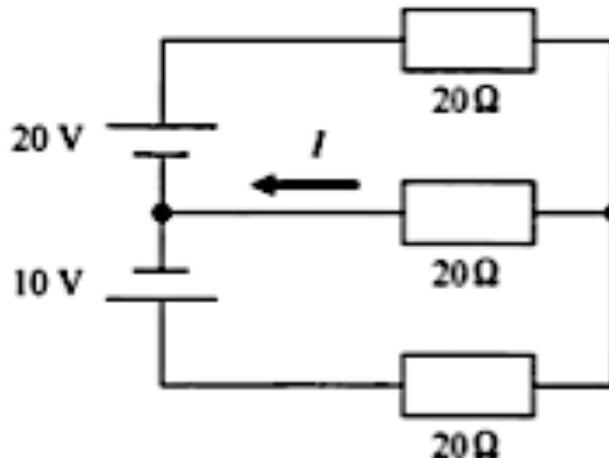
1. 0.1
2. 0.2
3. 0.3
4. 0.4
5. 0.5



■ 問題解説

- 図の回路の電流I[A]はどれか。テブナンの定理を使って解け。(第42回ME2種改)

- 0.1
- 0.2
- 0.3
- 0.4
- 0.5

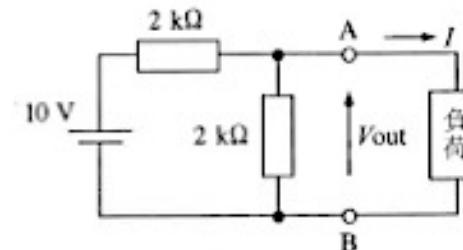


Iが流れる抵抗のみで構成される回路と、それ以外の回路とできていると考える。
それ以外の回路の合成抵抗は、電圧源を短絡すると 20Ω の並列回路となるので、 10Ω である。両端電圧は $15V$ となる。
よって、等価回路は $15V$ の電圧源と 10Ω の抵抗からなる回路だと分かる。
そうすると、合成抵抗は $10+20=30\Omega$ 、電源電圧は $15V$ なので、 $I=0.5A$

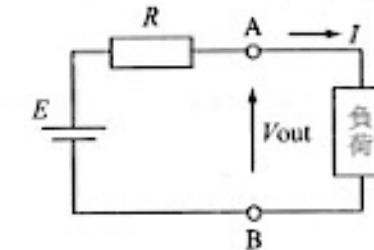
問題解説

- 回路1と回路2に同じ負荷をつないだ時、負荷にかかる電圧 V_{out} と流れる電流 I が一致した。回路2の電源電圧 E と抵抗 R の値の組み合わせで正しいのはどれか。(第37回ME2種)

- $E=5V, R=1k\Omega$
- $E=5V, R=2k\Omega$
- $E=5V, R=4k\Omega$
- $E=10V, R=2k\Omega$
- $E=10V, R=4k\Omega$



回路 1

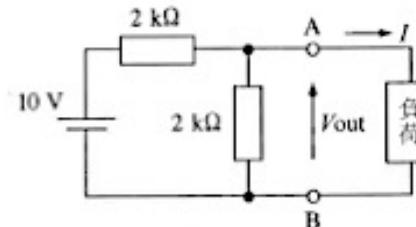


回路 2

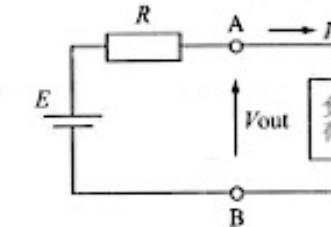
問題解説

- 回路1と回路2に同じ負荷をつないだ時、負荷にかかる電圧 V_{out} と流れる電流 I が一致した。回路2の電源電圧 E と抵抗 R の値の組み合わせで正しいのはどれか。(第37回ME2種)

- $E=5V, R=1k\Omega$
- $E=5V, R=2k\Omega$
- $E=5V, R=4k\Omega$
- $E=10V, R=2k\Omega$
- $E=10V, R=4k\Omega$



回路 1



回路 2

回路2はテブナンの定理を用い回路1を等価回路に変えたものと考えられる。

よってテブナンの定理を用い、回路1に負荷がないとして、次のAB間の合成抵抗、AB間の電圧を計算すればよい。

電源を短絡させたときのAB間の合成抵抗Rは、

$$R=2k/2=1k\Omega$$

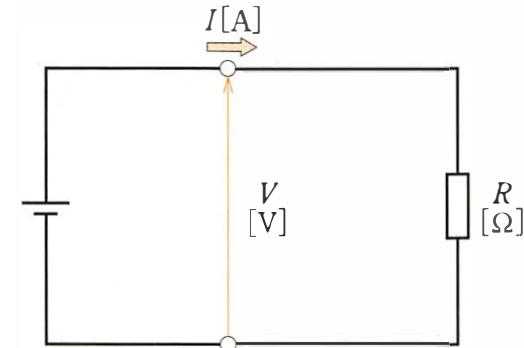
AB間の電圧Eは、

$$E=10/2=5V$$

電力

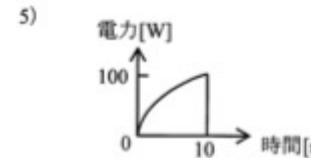
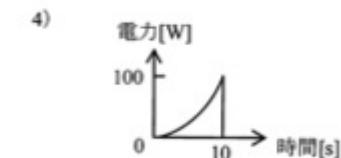
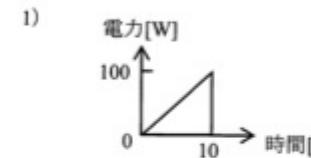
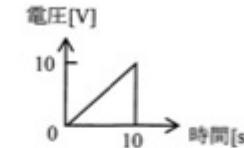
■ 電力

- ・電流を流すためには電気エネルギーを必要とする。言い方を変えれば、電流を流すと回路は電気エネルギーを消費する。
- ・電気エネルギーが単位時間あたりにする仕事の大きさを電力という。
- ・単位はワット (W) である。
 - ・ $1\text{W} = 1\text{J/s}$
- ・電力Pは次の式で表される。
- ・ $P = IV$
- ・図の回路の電力は、オームの法則より次に表せる。
- ・ $P = IV = RI^2 = V^2/R$



問題解説

- 1Ω の抵抗器の両端電圧が図のような波形であった。抵抗器の消費電力の波形として正しいのはどれか。（第42回ME2種）



問題解説

- 1Ω の抵抗器の両端電圧が図のような波形であった。抵抗器の消費電力の波形として正しいのはどれか。（第42回ME2種）

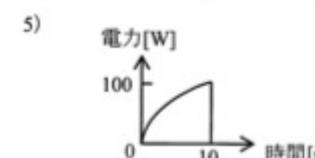
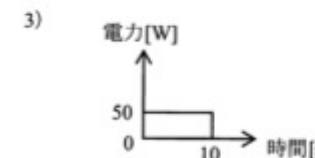
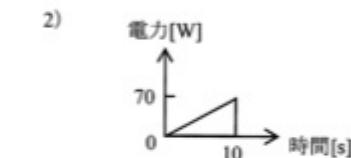
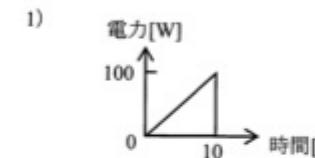
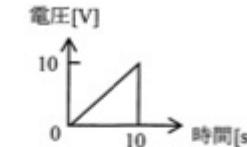
電力Pは

$$P=IV=V^2/R$$

$R=1$ だから

$$P=V^2$$

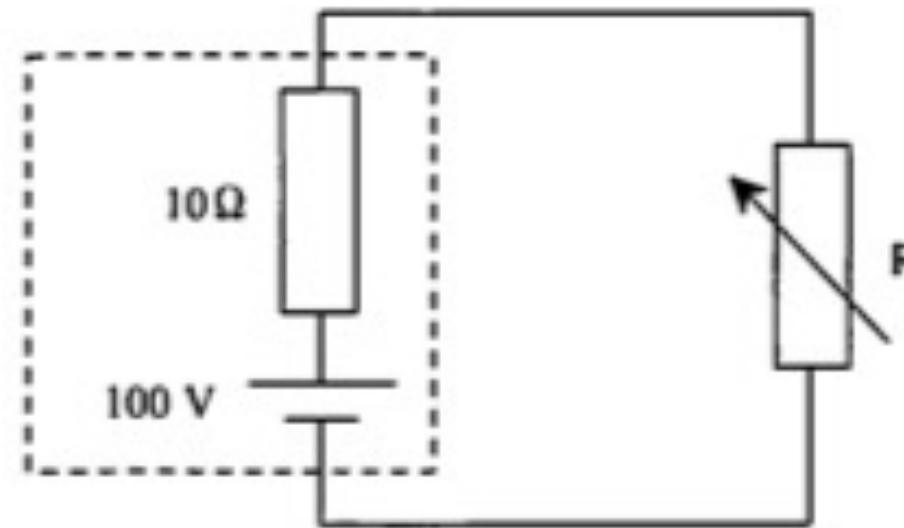
よって答えは4



■ 問題解説

- 起電力100V、内部抵抗 10Ω の電源に可変抵抗Rを接続し、Rを調節してRの消費電力を最大にした。このときのRの消費電力[W]はどれか。（第41回ME2種）

1. 25
2. 50
3. 125
4. 250
5. 500



■ 問題解説

- 起電力100V、内部抵抗 10Ω の電源に可変抵抗Rを接続し、Rを調節してRの消費電力を最大にした。このときのRの消費電力[W]はどれか。（第41回ME2種）

1. 25

2. 50 抵抗Rに加わる電圧Vは

$$V=100R/(R+10)$$

3. 125 Rで消費される電力Pは

$$P=IV=V^2/R=10000R/(R+10)^2=10000/(R+20+100/R)$$

分母が最小のときにPは最大となる。

4. 250 5. 500 凸関数だから、分母の微分が0のとき分母は最小となる。

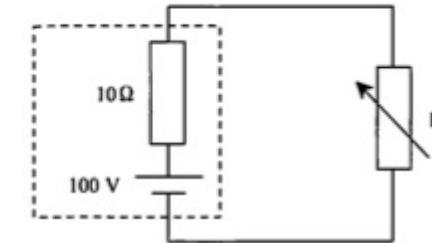
分母を微分すると

$$1-100/R^2=0$$

$$R=10$$

このときの電力は

$$P=10000/(10+20+10)=10000/40=250$$



■ 電力量

- 電気がある時間に行った仕事を電力量という。
- 単位はジュール[J]
- 電力Pでt秒間行った仕事、すなわち電力量Wは
- $W = Pt$

■ 問題解説

6Ωの抵抗を5本並列に接続し、その端子間に2Vの電圧を10分間加えたときの消費エネルギーは何Jか。（第33回ME2種）

1. 120
2. 500
3. 1200
4. 1800
5. 2000

■ 問題解説

6Ωの抵抗を5本並列に接続し、その端子間に2Vの電圧を10分間加えたときの消費エネルギーは何Jか。（第33回ME2種）

1. 120
2. 500
3. 1200
4. 1800
5. 2000

合成抵抗Rは

$$\frac{1}{R} = \frac{1}{6} \times 5$$
$$R = \frac{6}{5}$$

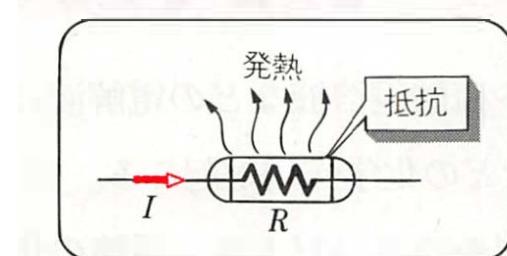
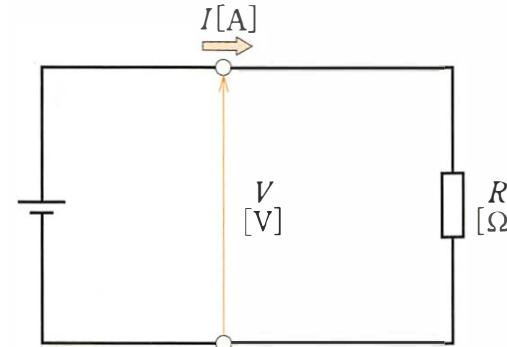
消費エネルギーWは

$$W = Pt = IVt = \frac{V^2}{R} t = 2^2 \times 10 \times 60 \times \frac{5}{6} = 2 \times 10^3 \text{ J}$$

■ 電気による発熱

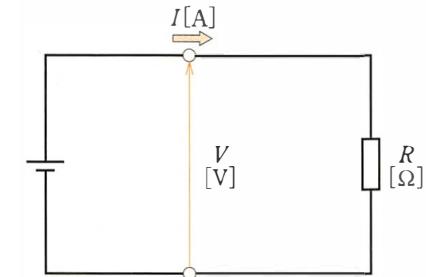
- 図のような抵抗と電源からなる単純な回路でも電力（電気エネルギー）を消費している。
- その電力は抵抗で消費され、熱エネルギーに変換されている。
- 抵抗でt秒間に発生する熱量W[J]は

$$W = Pt = IVt = RI^2t = \frac{V^2t}{R}$$



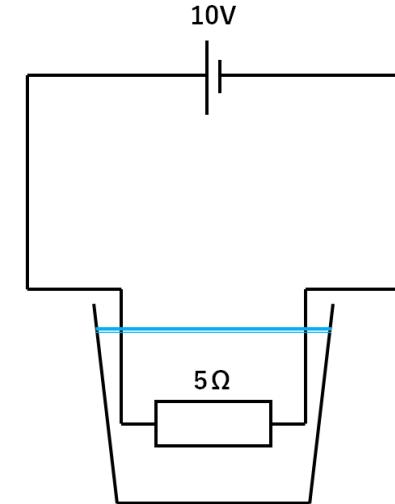
■ 热容量と消費電力

- ある量の物質の温度を 1°C (K)上昇させるために必要なエネルギー(熱量)を熱容量という。
- 熱容量Cは、質量m [kg], 比熱c [$\text{J} \cdot \text{kg}^{-1} \cdot \text{K}^{-1}$]とすると
- $C=mc$
- 比熱cは1kgの物質を 1°C 上させるために必要な熱量。
- 図の回路の抵抗でt秒物質を熱したとする。熱がすべて温度上昇に使われたとすると物質の温度上昇 ΔT は
- $$\Delta T = \frac{W}{C} = \frac{IVt}{C} = \frac{IV}{mc}$$



■ 問題解説

- 図のような回路で、水300gを10分間温めた。水は何度上昇するか。ただし、電力はすべて熱に変換され、その熱はすべて温度上昇に使われるとする。水の比熱は $4.2\text{J} \cdot \text{g}^{-1} \cdot \text{K}^{-1}$ とする。



問題解説

- 図のような回路で、水300gを10分間温めた。水は何度上昇するか。ただし、電力はすべて熱に変換され、その熱はすべて温度上昇に使われるとする。水の比熱は $4.2\text{J}\cdot\text{g}^{-1}\cdot\text{K}^{-1}$ とする。

電力量Wは

$$W = 10^2 \times 10 \times \frac{60}{5} = 12 \times 10^3 \text{J}$$

熱容量Cは

$$C = 300 \times 4.2 = 1260$$

よって温度上昇 ΔT は

$$T = \frac{12000}{1260} \cong 9.5^\circ\text{C}$$

